

日本手術医学会教育セミナー開催の報告



琉球大学医学部附属病院 手術部 久田 友治

日本手術医学会の教育セミナーが6月3日に沖縄で開かれた。日本手術医学会の会員は、手術部や材料部の看護師、医師（外科系医師、麻酔医）、臨床工学技士、滅菌技士等であり、手術がこれらの職種により支えられているのは言うまでもない。しかし、沖縄にいるこれらの職種が手術医学に関する学会や研修に参加するには多くの旅費が必要のため、最新の勉強をするための環境が充分ではない。このセミナーは日本手術医学会が全国各地の持ち回りで開催しており、沖縄で開催することは意義があると考え、開催のお世話をしたことから、その報告をさせていただきます。

講演の要旨

セミナーのテーマを「チームで支える安全な手術」とし、表で示す感染対策を中心とした五つの講演が行われた。ここでは紙面の都合から、我が国の感染対策におけるリーダーで、日本手術医学会の理事長でもある大久保憲先生の講演について紹介する。講演の要旨は次のようであった。

1. 質の高い医療のため病院運営における感染対策は大きな課題である。
2. 主なガイドライン（GD）として日本医療福祉設備協会の「病院空調設備の設計・管理指針」や米国CDCからのGDがある。
3. 手術室の床、壁等の環境表面が感染源になるのは稀であり消毒の必要はない。
4. 手術室の建築設備で大切なのは、周辺から塵埃が入らないような密閉性、水を浸透させない壁、清浄空気の供給、清掃し易い構造である。

5. バイオクリーンルーム以外では超高性能フィルターは必ずしも必要でない。
6. 清潔不潔の動線が交差しないような厳しい設定は不要で、履物交換に感染対策の根拠はない。
7. エビデンスのない対策は感染防止効果がないばかりか、不経済で無駄なことが多く、作業者に有害な場合がある。従来の感染対策の再評価を行って、エビデンスのない対策を切り捨てて、合理的な感染対策を実践していく必要がある。

コメント

看護師は手術を支える職種では人数が最も多いと共に、多職種が参加する学会や研修会においても積極的である。本セミナー参加者250名の中でも看護師が多くを占め、講演に聞き入っていた。医師では手術における感染対策などの外科総論とも云える研修をする機会が充分でないと考えられる。外科を目指す研修医を始めとする若い医師の参加を図ったが、多忙なためか、必ずしも参加は多くなく次回に期待したい。

表. 日本手術医学会教育セミナーのプログラム
「安全な手術のための感染対策」

大久保 憲（東京医療保健大学）

「あなたを守り、患者を守る職業感染対策」

遠藤 和郎（沖縄県立中部病院）

「安全な手術を支えるためCEにできること」

戸畑 裕志（久留米大学・CE）

「再使用医療器械の洗浄について」

伏見 了（大阪大学・材料部）

「安全な手術のためのシステムを目指して」

久田 友治（琉球大学）